



新方式の英語中見出し



須賀 廣

「中見出し」とは

「英語中見出し」(以下「中見出し」)とは、「日本語見出しに対応する英語表現」のことです。『ジーニアス和英辞典』第3版の中見出し部分全体は、基本的に次の4要素から成っています。

①小見出し：() でくくられた日本語部分で、中見出し相互間の微妙な差異を示す。

②中見出し：見出し語に対応する英語

③文型や **U** **C** 表示

④使い分け：小見出しでは説明しきれない場合に付加されるやや詳しい説明
たとえば、「船」の項を見ると、
ship **C** ; 《小型の船》 **boat** **C** ; 《大型の船》(正式) **vessel** **C**

の3語が示され、その後に用例が示されています。この《小型の船》や《大型の船》が「小見出し」、**boat** や **vessel** が「中見出し」となります。また、「家」の項では、「**house** **C**, **home** **U**」の後に、次のような**使い分け**を付けています。

使い分け 建造物としての家は **house**、家庭としての家は **home** であるが、**home** も **house** の意味で使われる。また、**home** は副詞としても用いる：家に帰る **go home** 《◆×**go to home** は不可》

「中見出し」をどう工夫したか

複数の中見出しから求める語を特定する場合、学習者は瞬時に自分が頭に思い描いている事物を的確に示す英語に到達できなければなりません。

そのため、この「中見出し」の呈示の仕方こそが、和英辞典の最も重要な部分の一つといえます。第3版では、この「中見出し」がわかりやすく、アクセスしやすくなるように工夫することで「ジーニアスらしさ」を出すように苦心しました。

第2版までは「ハイブリッド方式」により中見出し欄は英和辞典の書き方になっていました。これによるメリットもありましたが、「情報量が多すぎる」「発想が英語寄りである」「載っている中見出しの差異がわかりにくい」等のデメリットもありました。第3版ではこうしたデメリットを克服し、よりいっそうユーザーフレンドリーにするために、次のような工夫を行いました。

①中見出しを厳選

中見出しは多ければ多いほどよいというものではありません。候補が多すぎると、英語学習者は自分が求める英単語にすばやくアクセスすることが難しくなってきます。そのため第3版では中見出しを厳選し、必要かつ十分な情報に絞り込みました。

たとえば「言い訳」という項目では、それに相当する英語として、**excuse**, **pretext**, **alibi**, **out**, **apology** などが考えられます。しかし **pretext**, **alibi**, **out** は一般レベルの学習者が発信用として知っておくべき単語ではありません。また **apology** は、あくまで「謝罪」がその主たる意味であり、「弁解」は派生的なものです。そこで、第3版では **excuse** のみを残し、残りはすべて削除しました。この **excuse** 1語を十分使いこなせ

ば発信用として事足りると考えたからです。

②受信情報より発信情報

第3版では受信専用の情報は削除し、代わりに発信情報をどんどん盛り込んでいます。また、ただ単に語を羅列するのではなく、その語を使用する上で、必要な連語関係を必要かつ十分に示すようにしました。

たとえば「驚く」の項は、

be surprised (at [by] O/to do/(that)節) <(Oに/…して/…ということに)>; 《とても驚く》 **be astonished** (at [by] O/to do/(that)節) <(Oに/…して/…ということに)>; 《驚嘆する》 **be amazed** (at [by] O/to do/(that)節) <(Oに/…して/…ということに)> 《◆astonish, amaze, surpriseの順に意味が弱くなる》

となっています。通例用いられる **be surprised** のような形をそのまま中見出しで示し、またしばしば共に用いられる **at, to, that** 節などの連語を「中見出しと一体化させて」います。これが第3版の大きな特色の一つです。

また、文化の違いにも配慮しました。「兄」に当たる英語は **an older brother** あるいは **an elder brother**、《略式》では **a big brother** ですが、そもそも英米では兄弟姉妹でも長幼の違いにあまり重きが置かれていません。そこでこの辞書では《◆big brotherは主に子供が使う表現。英米では通例兄と弟を区別せず、単に **brother** と言う》と注記して、的確な発信ができるようにしています。

③日本語からの発想

和英辞典であるかぎり、基本的には「日本語を母語とする学習者が英語という言葉を用いて発信する」ことを前提としなければなりません。そのためには日本語のフィルターを通して、日本語の見出しの内容に合致した中見出しを用意する必要があります。たとえば、「祝う」の中見出しを考

える場合、

《日・出来事を》 **celebrate** O; 《人を》 **congratulate** O

とするだけでは不十分です。**congratulate** は日本語では「父を祝う」とはいわず、「父の昇進を祝う」のように表現するからです。だから第3版では、

《日・出来事を》 **celebrate** O; 《人を》 **congratulate** O₁ (on O₂) <O₁を(O₂のことで)>

のように中見出しで示し、その後には用例として「2人の結婚を祝う **congratulate the couple on their marriage**」などを示しています。

④比較の視点

複数の中見出しが挙げられている場合、それぞれの中見出しにどのような違いがあるのかがわからないと正しく用いることができません。中見出し相互間の比較が重要となります。第3版では、多くの意味を持つ日本語については、まず「語義区分」で大きく分類し、さらにそれぞれの語義区分の中で、中見出しの前に日本語の「小見出し」をつけています。その際、「小見出し」は「要を得て簡潔」な日本語となるように努め、学習者がそれぞれの中見出しの違いを瞬時に把握できるように工夫しました。「小見出し」は『「語義区分」をもう少し細かくしたもの』とお考えください。なお、意味があまり多くない日本語については「語義区分」は省略しています。

もちろん中見出し同士の間には、意味上においてはほとんど差異が見られない場合もあります。たとえば「創業」という意味では **foundation** も **establishment** もほぼ同じように用いられます。このような場合は小見出しは付けなくて、

foundation □, **establishment** □

とコンマで区切って並列させています。意味が大きく分かれる場合は「; (セミコロン)」, そうでない場合は「, (コンマ)」となっています。

(すが ひろし)